

令和5年度 岩手県支部の事業報告

1 専門部の事業実施状況

(1) 広報出版部

ア 趣旨普及活動

(ア) 支部会報「日本教育岩手」の発行

号数	発行日	部数	巻頭言のタイトルと執筆者及び主要記事
196	R5.7.20	3,850	「ゆとりと夢のある保育をめざして」 岩手県国公立幼稚園・こども園協議会 会長 芦 宏 氏 ◆令和5年度支部定期総会の報告 ◆盛岡市下橋中の論文 26年間の「森は海の恋人体験学習」
197	R5.9.20	3,550	「これからの学校におけるリーダーの在り方」 岩手県小学校長会 会長 佐藤 淳 氏 ◆支部講演会の概要 講師 KC アカデミー代表 近藤義男 氏 ◆第31回学校心理カウンセラー研修講座の報告
198	R5.11.20 カラー版	3,600	「様々な機会を通して学ぶこと」 岩手県中学校長会 会長 中屋 豊 氏 ◆いわての防災教育 その④ 野田村立野田中学校の防災教育 ◆陸前高田市立博物館 副主幹兼主任学芸員 熊谷 賢 氏
199	R6.2.20	3,650	「学校のあり方の問い直し」 岩手県高等学校長協会 会長 高橋 一佳 氏 ◆令和5年度第48回全国教育大会北海道大会の報告 ◆高校の普通科改革 県立大槌高等学校 校長 継枝 斉 氏

<成果と課題>

- 1 コロナが5類に移行になり、学校ではこれまでの活動を大きく見直し教育活動が再開された。各地区会の総会や研修会も従来どおり開催できるようになり、地区活動の状況や特色ある学校の様子を報告していただき紹介することができた。
- 2 東日本大震災から13年が経過し、学校では防災教育が年々充実してきている。野田町立野田中学校では、「太陽プロジェクト」という復興教育に取り組んで11年目になる。全校生が地域ぐるみで取り組んできた実践事例をご紹介いただき、中学校における防災活動について考えることができた。
- 3 岩手県立大槌高等学校が地域と協働した学校運営として、高校の魅力化で探究活動に取り組み、「地域探究科」という普通科改革の事例を紹介することができた。

(2) 組織事業部

ア 研修・援助事業

(ア)各団体への協力援助活動(助成金各5万円)

主催(研修会名)	期日等	講師名と演題
岩手県小学校長会 (第61回岩手県小学校長会総会)	5. 4.22	「本県教育行政の現状と課題」 岩手県教育委員会首席経営指導主事兼小中学校人事課長 熊谷 治久 氏 「本県指導行政上の課題」 岩手県教育委員会首席指導主事兼義務教育課長 武藤美由紀 氏
岩手県中学校長会 (第61回岩手県中学校長会総会)	5. 4.28	「本県教育行政の現状と課題」 岩手県教育委員会首席経営指導主事兼小中学校人事課長 熊谷 治久 氏 「本県指導行政上の課題」 岩手県教育委員会首席指導主事兼義務教育課長 武藤美由紀 氏
岩手県高等学校長協会 (令和5年度岩手県高等学校長協会普通部会総会・研究協議会)	5.11.8	講演 「生きる力を育む安全教育の推進」 講師 岩手県立図書館長 森本 晋也 氏 研究発表 雫石高等学校 校長 佐々木佳史 氏 伊保内高等学校 校長 高橋 国博 氏
岩手県高等学校副校長協議会 (令和5年度岩手県高等学校副校長協議会秋季総会研修会)	5.11.16	講師 立花 起一 氏 役職 元岩手県立水沢高等学校 校長
岩手県国公立幼稚園・こども園協議会 (令和5年度第55回岩手県国公立幼稚園・こども園教育研究大会)	6. 1.10	講演 「未来につなぐ幼児教育」 講師 いわて幼児教育研究センター 主任指導主事 瀬谷 圭太 氏 岩手県立総合教育センター 研修指導主事 高橋 文子 氏

(イ)各地区会研修会・講演会への協力援助活動(助成金各2万円)

○ 令和5年度地区会研修会は、16地区会のうち14地区会が実施

地区会	期日等	講師名と演題
花巻地区会 (グランシエール花巻)	5. 7. 1	「岩手で、世界で活躍する人材の育成」 花巻市教育委員会 教育委員 中村祐美子 氏
江刺地区会 (ホテルニュー江刺新館)	5. 7. 1	「人材の育成と活用 ―花巻東高等学校の教育を中心に―」 花巻東高等学校 校長 小田島順造 氏
盛岡地区会 (サンセール盛岡)	5. 7. 4	「ウクライナ・ロシア戦争とロシアの戦争文化」 岩手大学人文社会学部 准教授 麻田 雅文 氏

九戸地区会 (久慈グランドホテル)	5. 7. 5	「学校教育と図書館」 前県立図書館長(支部組織事業部長)藤岡宏章 氏
遠野地区会 (あえりあ遠野)	5.7. 12	「移住者から見えた遠野、そして『遠野物語』」 遠野文化研究センター研究員 木瀬 公二 氏
岩手地区会 (サンセール盛岡)	5. 7.25	「原爆に散った宝塚の華 未完の大女優 園井恵子の生涯」元岩手町立沼宮内小学校長 橋本壽美男 氏
気仙地区会 (シーパル大船渡)	5. 7.31	「ベアレンの今までとこれから 創業から大切にしていること」 ベアレン醸造所 代表取締役社長 蔦田 洋一 氏
二戸地区会 (二戸市シビックセンター)	5. 8. 3	「地域資源、地域エネルギーで持続可能なまちづくり」 軽米町長 山本 賢一 氏
一関東地区会 (サンプラザ及善)	5. 8. 7	高座 「名馬太夫黒」「東山のセールスマン」 地産地消アマチュア講談師 地伏亭金目 氏
紫波地区会 (紫波グリーンホテル)	5.8.26	「教育はすべての業務に優先する」 (株)バンザイファクトリー 代表取締役 高橋和良 氏
一関西地区会 (ブエルパルク)	5.11.10	「一関の文化とシニアが果たす役割」 元一関第一高等学校 校長 内田 正好 氏
北上・和賀地区会 (ホテルシティプラザ北上)	5.11.25	「「教え育てる」から「教えられ育んでいく」」 北上更木 永昌寺 住職 海野 義範 氏
下北地区会 (龍泉洞温泉ホテル)	5.12.1	「今求められる防災教育、復興教育の推進」 岩手県立図書館 館長 森本 晋也 氏
宮古地区会 (宮古ホテル沢田屋)	6.1.30	「縄文遺跡はなぜ世界遺産になったのか」 御所野縄文文化博物館 館長 高田 和徳 氏

(ウ) 令和5年度第9回主幹教諭研修派遣事業

- 今年度新たに主幹教諭になった県内小中学校の19名を対象に、還元事業として全国教育大会北海道大会(オンライン参加)に派遣。申込があった2名が参加した。

イ 会員拡充と支部組織強化

(ア) 終身会員への加入促進文書の発送

- 令和5年2月8日(水)各地区会を通して令和4年度3月末退職者へ入会案内文書を発送、県立高等学校校長・副校長等には直接学校あてに発送
- 令和5年7月26日(水)支部より未加入者へ再度、直接個人あて入会案内を発送

(イ) 主幹教諭への加入依頼文書の送付

- 令和5年6月26日(月)主幹教諭96名(小53名、中43名)に直接加入依頼文書を送付

(ウ) 岩手県支部要覧の改訂

- 令和5年1月20日(金)令和5年度版印刷完了 1,800部印刷、会員の加入促進に活用

(エ) 正会員及び終身会員の加入状況

- 正会員は1,307名、令和4年度に比べ全ての校種で減少した。例年のように県教委・教育事務所・センターをはじめ、小中の主幹教諭や市町村教委の割愛職員等にも加入を働きかけた。学校統合による校長・副校長38名減(自然減)の影響が大きく、令和4年度の22名減

よりさらに多い51名の減少となった。終身会員の新会員も24名減となり、これまで毎年増加していた総会員数が初めて5名の減少となった。

(オ) 日本教育会岩手県支部のホームページの更新

- (一財)岩手県教育振興基金の事業内容と併せて、岩手県支部の活動状況の周知徹底を図るため平成25年1月からホームページを開設し、今年度は8月21日に更新を完了
- 令和4年度岩手県支部会報(192号～195号)を新規に掲載

ウ 教育振興基金の寄附状況

(令和5年9月30日現在)

No.	寄附の種類	R5	R4	R3	R2	R元	H30	H29	H28	H27	H26
①	新任校長・副校長の指定寄附	183	235	207	212	229	196	239	217	189	182
②	終身会員の指定寄附	85	109	94	90	94	89	98	92	79	90
③	退職者の一般寄付	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		270	344	301	302	323	285	337	309	268	272

※ 新任校長による指定寄附は(公財)岩手育英奨学会への助成として、平成22年度から新たに実施

■ 令和5年度拠出協力者数

新任校長 99名 (小46名、中23名、高30名)

新任副校長 84名 (小31名、中18名、高35名)

終身会員(指定) 85名

(一般) 2名

<成果と課題>

- 1 令和5年度は、統廃合により小学校が20校、中学校2校の計22校が閉校した。それによる会員の自然減は38名となった。例年のように県教委、各教育事務所等を訪問しての加入依頼をはじめ、主幹教諭や割愛職員への加入依頼も積極的に行ったが、自然減による大幅な減少に合わせ、主幹教諭や幼稚園の加入が少なく、昨年度より51名の減となった。
- 2 小中新任校長・副校長研修が集合から事務所毎の研修になり、今年度も会員加入や寄付金の依頼を郵送に切り替えた。昨年度は4回お願いしたが今年度は2回とした。
- 3 コロナ禍も4年目になり、昨年度は7地区会しか実施できなかった研修会・講演会が14地区会で開催することができた。4年ぶりに対面で懇親会を実施した地区会もあり、会員との交流が深まって活気が感じられたという報告を複数いただいた。

(3) 調査研究部

ア 「岩手の先人」の授業実践

- コロナ禍のため、令和2年度から授業実践を中止
- 令和6年度に岩手地区会が叢書14号を活用した授業研究会を実施予定

イ 公益社団法人日本教育会主催事業・調査等への参加と協力

(ア)「第31回学校心理カウンセラー研修講座」への参加の奨励（8/1～8/3熊本市）

- 養護教諭を中心に、沿岸地区会（気仙→釜石→宮古→下北→九戸）の5地区会が輪番で参加、令和6年度の九戸地区会で2巡目が終了

(イ)「第14回教育実践顕彰事業」への応募の奨励

- 今年度は2校が応募し、2校ともに入賞

■ 「会長賞」受賞

野田村立野田中学校 …………… 校長 菊池 勉
「ふるさと野田村を愛し、その復興・発展を支える人材の育成
—復興教育(太陽プロジェクト)11年間の取組を通して—」

■ 「奨励賞」受賞

岩手県立花巻清風支援学校 北上みなみ分教室…………… 副校長 坪谷 有也
「自立と社会参加に向けた地域協力活動 —地域から頼りにされる子どもたち—」

< 成果と課題 >

- 1 令和5年度「第14回教育実践顕彰事業(本部主催)」の論文募集に県内から2校の応募があった。今年度は県立の特別支援学校からの応募があり入賞が期待されたが、野田中学校が「会長賞」、花巻清風支援学校北上みなみ分教室が「奨励賞」を受賞した。
- 2 コロナ禍等のため「岩手の先人」を活用した公開授業が開催できないでいる。6年度に岩手地区会が叢書14号を活用した授業実践の計画を立てており、県支部として地区会へ可能な支援をするなど、会員に周知して参加を呼びかけ叢書の活用を図っていきたい。
- 3 東日本大震災から間もなく13年目になる。沿岸地区の養護教諭を中心に実施してきた本部の学校心理カウンセラー研修への参加事業が、来年度の九戸地区会を最後に2巡目が終了する。県内全域でコロナ禍や震災の影響で精神的なケアが必要な子どもが増えており、今後は参加対象を広げる方向で検討していきたい。